

性差解消「社会全体に恩恵」



グテーレス氏

国連のグテーレス事務総長は8日の国際女性デーに際し、朝日新聞など各国の主要メディアに寄稿した。「女性の権利を守り、彼女たちの可能性を最大限に発揮させる唯一の方法は、女性と少女たちをエンパワーし(力づけ)、力を与えることだ」と訴えている。

グテーレス事務総長は「時代錯誤の考えと凝り固まった男性優位主義」によって、指導的地位はいまだに男性によって占められ、経済的なジェンダーギャップ(男女格差)が広がっていると指摘。「これを変えるために、女性の声に耳を傾け、女性たちが自身の人生と世界の未来をコントロールできるように力を与える必要がある」とした。

また雇用面で性差がなくなれば、「2025年までに世界

国際女性デー 国連総長寄稿

Dear Girls

のGDPが12兆円増え、女性が学校で学ぶ期間が1年長くなれば、彼女の将来の収入は25%増えるかもしれない」とも指摘。「公的機関で女性割合が増えれば、改革が促され、政策決定は改良され、社会全体が恩恵を受けるだろう」と記した。(杉山麻里子、山本奈朱香)

 デジタル版に全文



世界経済フォーラムが発表した201

6年のジェンダーギャップ指数で、日本は144カ国中111位でした。背景には、性別で生き方を決めるような考え方が社会に根強くあるのではないか。それが、女性だけでなく男性の生きづらさにもつながっていないか――。国際女性デーに向け、次代を担う女の子たちが性別にとらわれず「なりたい私」になれる社会をめざす企画「Dear Girls」に取り組んできました。きょうの朝刊では、いろいろな面で女性にかかわる記事を掲載します。